

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員  
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

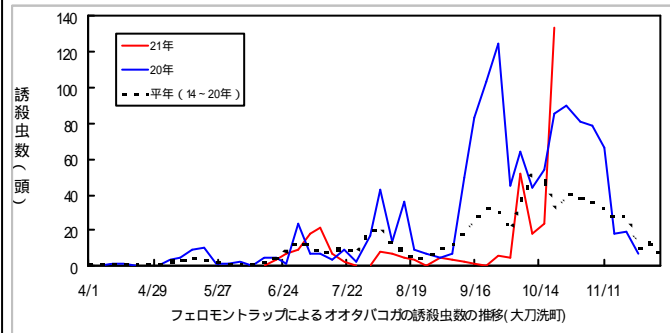
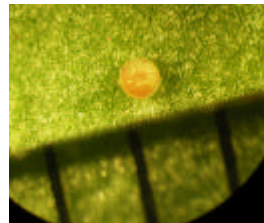
平成21年度病虫害発生予報第8号(11月)について

このことについて、病虫害発生予報第8号を発表したので送付します。

予報第8号

**オオタバコガの発生に注意しましょう!**

オオタバコガの発生が増加しています。幼虫は、作物の生長点付近の茎葉や花蕾を加害するため、発生量が少なくても被害が大きくなります。ほ場をよく観察し、効果の高い若齢幼虫期に防除を徹底しましょう(p4参照)。



卵                      孵化直後の幼虫



老齢幼虫

向こう1か月間の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

| 作物名  | 病虫害名                 | 発生量(現況)         | 発生量(予想)         |               |
|------|----------------------|-----------------|-----------------|---------------|
|      |                      | 平年比             | 平年比             | 前年比           |
| イチゴ  | うどんこ病<br>炭疽病<br>ハダニ類 | やや少<br>やや少<br>並 | やや少<br>やや少<br>並 | やや少<br>並<br>並 |
| ナス   | すすかび病                | 並               | 並               | 並             |
| キャベツ | モンシロチョウ              | 多               | 多               | やや多           |
| 野菜共通 | コナジラミ類<br>オオタバコガ     | 並<br>やや多        | 並<br>やや多        | 並<br>やや多      |

< 予想される向こう1か月の天候 >

天気は数日の周期で変わるとでしょう。

向こう1か月の気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は高い確率70%です。2週目は高い確率50%です。3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

要素別確率

| 要素   | 低い<br>(少ない) | 平年並 | 高い<br>(多い) |
|------|-------------|-----|------------|
| 気温   | 10          | 30  | 60         |
| 降水量  | 20          | 40  | 40         |
| 日照時間 | 30          | 40  | 30         |

(福岡管区气象台 平成21年10月23日発表抜粋)

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の( )書きは、( + )は発生を助長する要因、( - )は発生を抑制する要因、( ± )は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

【野菜】

1 イチゴうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 10月5 半月調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった( - )。

発病株率 0% (平年 0.9%、前年 0.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並か多いとされている( ± )。

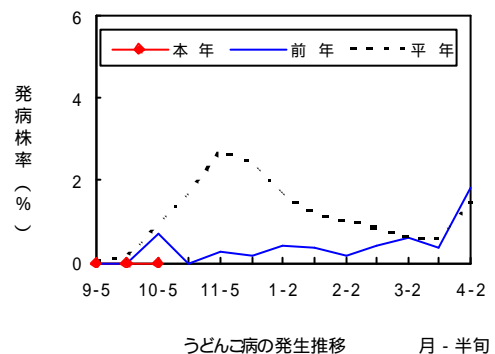
(3) 防除上の注意

ア 本病の初発生は、新しく展開した葉の裏に認められるので、上位葉裏面の病斑の有無を定期的に確認し早期発見に努める。

イ ビニル被覆後から年内にかけて発生が多くなるので、予防散布を徹底する。

ウ 下葉かぎを行い、薬液が葉裏にもかかるようにする。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロテーション散布する。



2 イチゴ炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 10月5 半月調査結果の結果、発生量は平年よりやや少なかった( - )。

発病株率 0.1% (平年 0.5%、前年 0.1%)

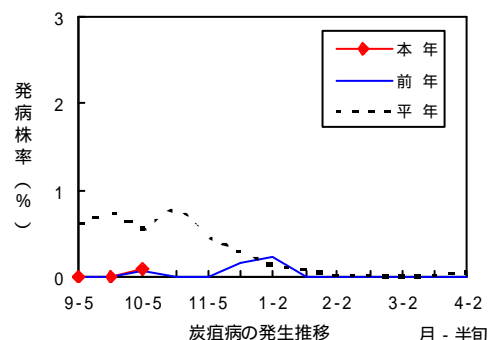
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並か多いとされている( + )。

(3) 防除上の注意

ア ビニル被覆後のハウス内温度の上昇により、潜在感染株が発病しやすくなる。また、着果負担は発病を助長する。

発病株は、クラウンごと抜き取り処分する。

イハウスの排水や換気を図り、多湿にならないようにする。



(4) 健全な親株の確保に向けた対策

- ア 罹病苗及び同苗周辺の育苗苗は親株に使用しない。また、親株管理はできるだけ雨よけ施設内で行う。
- イ 健全親株生産のため、ビニル被覆後に定植株から発生した秋ランナーを採苗する。この場合、定植株の生産力を低下させないため、採苗は1株から1苗とする。

3 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量： 平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 10月5日半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生株率 6.1%(平年 4.0%、前年 4.2%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並が多いとされている(+)

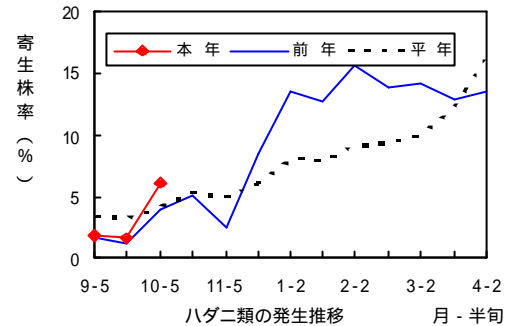
(3) 防除上の注意

ア 初期はスポット的に発生し、地面に接した下位葉程寄生が多いので、葉かぎ等の管理作業時によく観察し、発生を認めたら早めに防除を行う。

イ 防除は摘葉後に行うと効果的である。その際、葉裏に薬剤が十分かかるようにする。

ウ ハダニ類が寄生した摘葉や除草した雑草は、ほ場内に放置せず、ビニル袋に入れ密閉して処分する。

エ カブリダニ類等の天敵の利用は、天敵に対して影響の少ない殺ダニ剤を散布し、ハダニ類の密度を下げてから実施する。



4 ナスすすかび病

(1) 予報の内容

発生量： 平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 10月5日半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 0%(平年 1.0%、前年 1.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並が多いとされている(+)

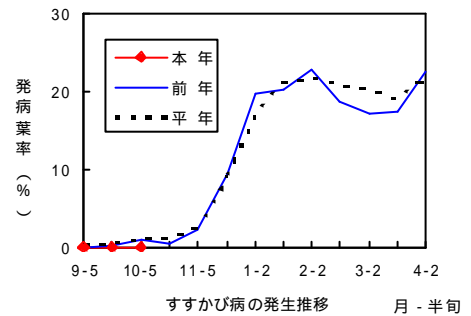
(3) 防除上の注意

ア 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

イ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

ウ 暖房機の設定温度が低めの場合や、二重被覆等を設置した場合、発生が多くなる恐れがあるので注意する。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



5 キャベツのモンシロチョウ

(1) 予報の内容

発生量： 平年より多・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 10月5日半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)

寄生株率 7.6%(平年 1.8%、前年 5.1%)

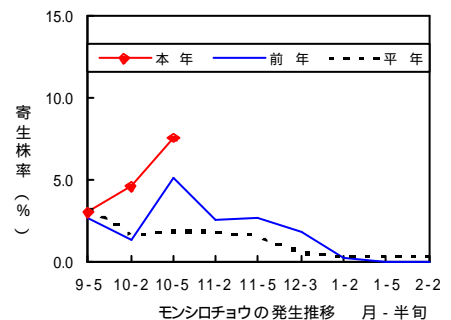
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並が多いとされている(+)

(3) 防除上の注意

ア 多発すると防除が困難となるので、結球期前の防除を徹底する。

イ 老齢幼虫は薬剤に対する感受性が低いので、1~2齢の若齢幼虫期に防除を実施する。

ウ 圃場への侵入源となるので、畦畔等のアブラナ科雑草の除草を徹底する。



6 コナジラミ類（野菜共通）

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

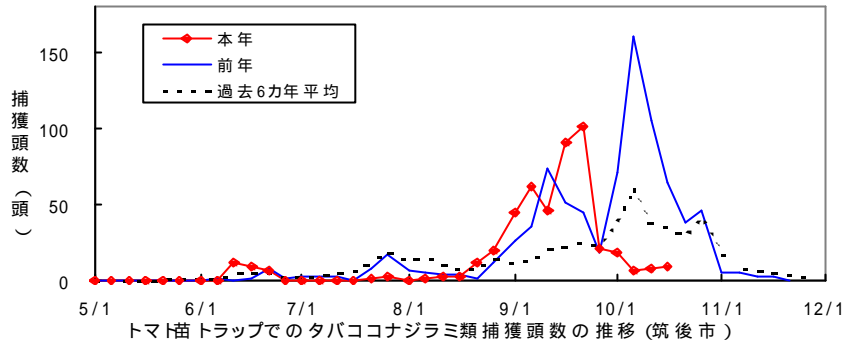
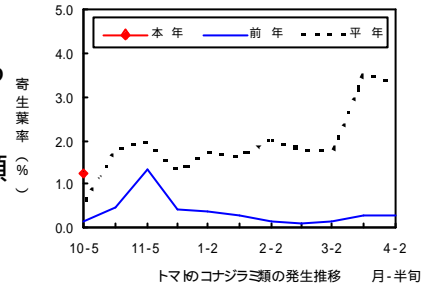
ア トマトの10月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生株率 1.1% (平年 0.6%、前年 0.1%)

イ トマト苗トラップにおける10月1半旬～4半旬の捕獲頭数は、平年より少なかった(-)。

筑後市 43頭 (過去6カ年平均 171頭、前年 403頭)

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並か多いとされている(+)



(3) 防除上の注意

ア ほ場内外の雑草の除去を徹底し、害虫の生息と増殖源を絶つ。

イ 幼虫や蛹が寄生している下位葉は、できる限り除去する。

ウ 葉裏や下位葉にも、薬液が十分かかるよう散布する。

エ トマト黄化葉巻病(TYLCV)とキュウリ退緑黄化病(CCYV)の罹病株は、早期に抜き取りほ場外へ持ち出す。

8 オオタバコガ（野菜共通）

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)

イチゴでの寄生株率 1.0% (平年 0.8%、前年 0.3%)

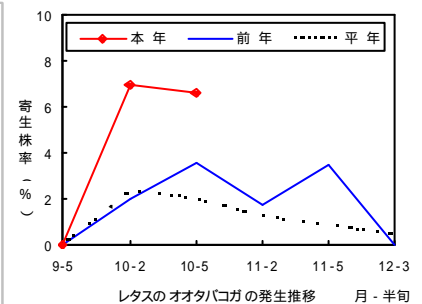
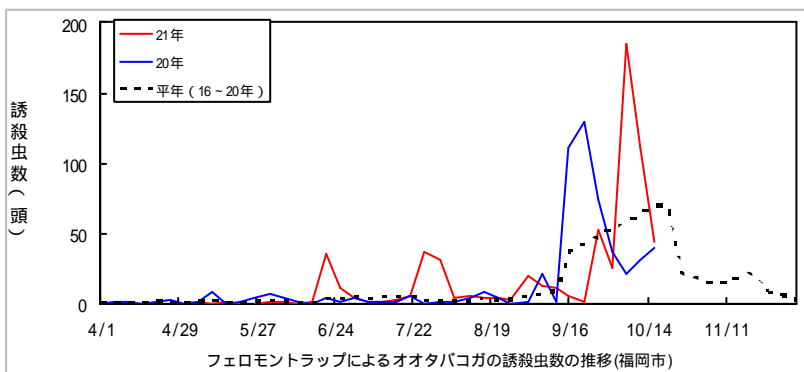
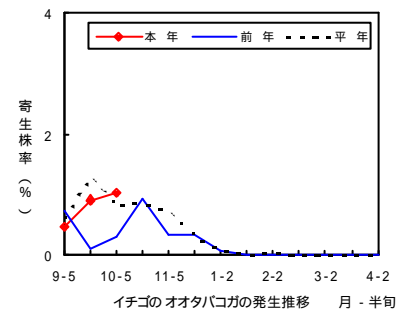
レタスでの寄生株率 6.7% (平年 2.0%、前年 3.6%)

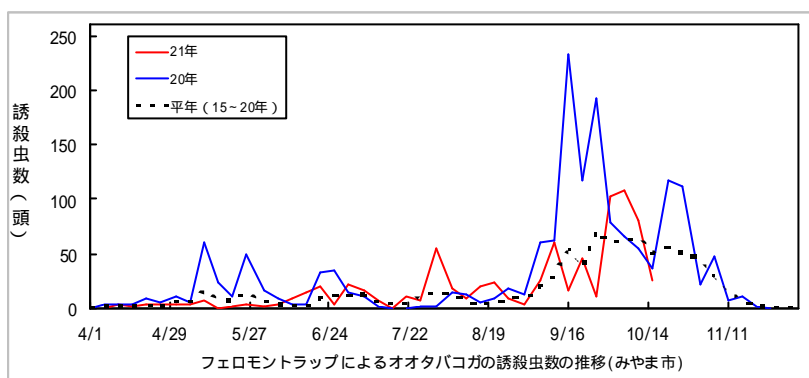
イ フェロモントラップにおける10月1半旬～10月4半旬の誘殺虫数は、平年より多かった(+)

福岡市 366頭 (過去6カ年平均 246頭、前年 129頭)

みやま市317頭 (過去5カ年平均 234頭、前年 236頭)

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並か多いとされている(+)





### (3) 防除上注意すべき事項

ア 中齢以降の幼虫は未熟果や結球部位に食入するため、防除効果が著しく低下する。

このことから、薬剤防除は孵化直後の幼虫を対象に実施する。

イ 施設栽培では、黄色蛍光灯や防虫ネットにより成虫の飛び込みを防止する。

ウ キャベツ、レタスでは、結球期前の防除に努める。また、レタスではトンネル被覆前の防除を徹底する。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

オ 病害虫防除所ホームページに掲載されている最寄りのフェロモントラップにおける誘殺状況(福岡市、大刀洗町、みやま市、広川町、岡垣町、北九州市)を参考にして防除時期を決める。

【野菜：その他の病害虫】

| 作物名<br>病害虫名                        | 発生量<br>(現況)   | 発生量<br>(予想)   |               | 防除上注意すべき事項等  |
|------------------------------------|---------------|---------------|---------------|--|
|                                    | 平年比           | 平年比           | 前年比           |  |
| ナス<br>うどんこ病<br>灰色かび病               | 並<br>並        | 並<br>並        | 並<br>並        | ・ 整枝・剪定を行い、通風をよくする。<br>・ 発病した葉や果実は、早めに持ち出し処分する。  |
| トマト<br>葉かび病                        | 並             | 並             | 並             | ・ 整枝・剪定を行い、通風をよくする。<br>また、肥料切れを起こすと発生しやすくなるので、適正な肥培管理を行う。  |
| キャベツ<br>黒腐病<br>菌核病<br>コナガ          | 並<br>並<br>やや少 | 並<br>並<br>やや少 | 並<br>並<br>やや少 | ・ 予防散布に努める。<br>・ 防除適期は結球開始期である。株元へ十分かかるように株の周囲から散布する。<br>・ 若齢幼虫期に防除する。   |
| レタス<br>灰色かび病<br>菌核病<br>腐敗病         | 並<br>並<br>並   | 並<br>並<br>並   | 並<br>並<br>並   | ・ 発病株は、抜き取り処分した後、直ちに薬剤散布する。<br>・ 灰色かび病と同時防除を行う。<br>・ 凍害にあうと被害が激しくなるので、トンネル被覆が遅れないようにする。                                      |
| 野菜共通<br>ハスモンヨトウ<br>ミナミキイロ<br>アザミウマ | 並<br>並        | 並<br>並        | 並<br>並        | ・ かすり状の葉裏には若齢幼虫が群生しているので、見つけたら直ちに除去する。<br>・ キュウリ黄化えそ病(MYSV)の媒介虫であり、本種の発生が少ない場合でも伝染・蔓延する恐れがある。そのため、発病株は早期に除去するとともに、薬剤防除を徹底する。 |

## 農薬安全・適正使用対策の徹底を！

農作物毎に、全ての農薬に残留基準値が設定されており、基準値を超えた食品（農産物）の販売が禁止されています。農薬の使用に当たっては、ラベルをよく確認し、使用基準を遵守してください。

品目の異なる畑作物の作付け機会が多くなる時期ですので、周辺作物に飛散影響防止（ドリフト）対策を講じて下さい。また、散布時は農薬の被ばく防止のため、保護具を必ず着用して下さい。

農薬の使用後は、防除履歴を正確に記帳し、使い終えた農薬の空容器は、生活環境の保全や公衆衛生保全の点から適切に処分して下さい。

### 1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数など、ラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を、十分に洗浄する。

### 2 飛散影響防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

### 3 防除履歴の記帳

薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量を正確に記帳する。

### 4 保護具の着用

農薬の散布前には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

### 5 空容器の処分

空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。また、野焼きは法令で禁止されています。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jpnn.ne.jp/fukuoka>  
電子メール [kfok0301@sp.jpnn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jpnn.ne.jp)